

# 社会連携報告書

2018(平成30)年度

鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部  
COC(地域連携)・国際交流センター

# 目次

---

はじめに	1
<b>1. 高大連携</b>	<b>2</b>
1-1  高大連携	
1-2  三重県商業教育研究会	
<b>2. 学生による地域活動</b>	<b>4</b>
2-1  TSUNAGU プロジェクト	
留学生関連事業	
2-2  グローバルスタディ	
2-3  多文化地域交流フェスタ	
2-4  鈴鹿大学インターナショナルサロン（わいわい春まつり）	
2-5  郡山まちづくり協議会との共催餅つき大会	
クラブ・サークル	
2-6  災害ボランティアサークル「Bell Amigo」	
2-7  こどもボランティア部	
2-8  クッキング同好会 Tomato の食育活動	
2-9  学生広報部 SUZUKA9（スズカナイン）	
ボランティア活動	
2-10  津市立千里ヶ丘小学校での学習支援ボランティア	
<b>3. 地域連携</b>	<b>14</b>
3-1  公開講座	
3-2  授業公開	
3-3  履修証明プログラム	
3-4  COC+／高等教育コンソーシアムみえ	
3-5  SUZUKA 産学官交流会	
3-6  鈴鹿市社会福祉協議会との防災関連事業	
3-7  鈴鹿市市民アカデミー「まなベル」	
3-8  みえアカデミックセミナー	
3-9  亀山市市民大学キラリ人材育成事業	

- 3-10 小中学生英語スピーチ発表会
- 3-11 コトバ・わたし・未来ワークショップ
- 3-12 学校や地域で子どもの学びを応援する人たちの交流会

**4. 国際交流・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26**

- 4-1 海外留学支援制度（SOP）
- 4-2 国際交流
- 4-3 啓英高校訪日修学旅行の受け入れ

**5. 調査研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29**

- 5-1 ビジネス・イノベーション研究センター
- 5-2 子育てイノベーション研究センター（ランニングバイク普及プロジェクト）
- 5-3 減塩ワークショップ
- 5-4 教職教育センター（教員の養成・採用・研修の一体的事業）

**資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33**

- 学外委員会などでの活動一覧
- 2018年度公開講座一覧
- 協定先一覧

はじめに

鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部のCOC（地域連携）・国際交流センターは、学内組織の見直しにより2016年度に開設され、従前組織から引き続いて公開講座の運営や産学連携の推進、海外協定校の拡大、学外団体との調整を行ってきました。2018年度からはCOC（地域連携）・国際交流センターが4部門体制（地域連携、国際交流、COC+およびコンソーシアムみえ、SUZUKA産学官交流会）となり、それぞれの部門で組織立てて運営を行っています。センター全体としては、地域や教育、ことばなどに関わる社会的課題を解決するために、大学および学生が他大学や地域社会、行政などさまざまな団体と連携することで、本学が持つ知的資源や人的資源による社会貢献を目指しています。またそれが地域社会の発展、本学の研究、教育の進展につながられることを願っています。

本学の多くの社会連携活動のなかから特筆するとしたら、今年度一定の成果を出した「TSUNAGUプロジェクト」が挙げられます。詳しくは報告書をご覧くださいと思いますが、活動を「TSUNAGUプロジェクト」に位置づけるには学生が必ず関わっていることを条件としており、活動成果には学生の多大なアイデアや足跡があらわれています。これらの活動は学生の視野を広げ成長させるだけでなく、地域の皆さまや高校生にとっても魅力を感じていただいています。本学では来年度「TSUNAGUプロジェクト型入試」を導入し、入学前から地域づくりや地域課題解決に取り組む意欲ある学生の確保につなげようと考えています。

また、鈴鹿市との連携は、将来的な本学の存続にとって最重要課題であると位置づけています。鈴鹿市行政に寄与するよう、鈴鹿市の抱える課題に真摯に向き合い、積極的な協力・提案を行っていきたいと考えています。本学の強みである提案力とフットワークの軽さを生かし、意義のある関わり方を戦略的に行っていきたいと考えています。

本冊子は本学の社会連携活動の2018年度分をまとめたものです。ご一読いただければ幸いです。また、本学の活動に魅力を感じていただけましたら、共に考え、共に活動し、共に地域課題の解決をする仲間としてご支援、ご助言いただければと思います。

すでに次年度に向けて活動が始まっている取り組みもあります。新たな事業も多数生まれていますので、実りあるものとなりますようにセンターとしてバックアップしていきます。

鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部の社会連携活動について、今後ともご理解、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

COC（地域連携）・国際交流センター長 乾 陽子

## 1. 高大連携

事業名：1-1 高大連携

### ■活動の目的と経緯

鈴鹿大学では、大学と高等学校との相互の連携を図るために、久居高等学校、鈴鹿中等教育学校、鈴鹿高等学校、四日市工業高等学校と協定書を締結し、様々な事業で交流を行っています。

### ■活動内容と実績

#### ☆久居高等学校

2019年度から久居高等学校が新たに開設する授業科目「幼児コミュニケーション」について、保育教育を実施している県内高等教育機関がリレー形式で授業を担当する事業について、検討を行いました。2019年度から本学、高田短期大学、ユマニテク短期大学と共に実施する予定です。

#### ☆鈴鹿中等教育学校

模範解答のない問いに自分なりの答えを見つけていくことのできる人材の育成をテーマに実施した「ビジネス・イノベーション研究 グローバル人材育成～自ら考え、判断し、行動する～」プログラムの中で、本学の高見啓一准教授が講師およびコーディネーターを務めました。

#### ☆鈴鹿高等学校

高大接続の一環として、スポーツの授業や栄養士・保育士体験講習会を実施しました。また、鈴鹿高等学校の文化祭に本学の学生が健康チェックなどの企画を提供しました。12月には台湾の啟英高等学校生と鈴鹿高等学校生が交流を行った際に、本学の郭育仁准教授がサポートしました。

#### ☆四日市工業高等学校

四日市工業高等学校専攻科生徒の視野を広げ、進路に対する意識や学習意欲を高めるために、本学の授業科目「TOEICの英語」や「ビジネス英語」などへ特別聴講学生として受け入れ、本学および高等学校専攻科での単位として認定しています。



ビジネス・イノベーション研究



保育士体験講習会



文化祭健康チェック

### ■今後の計画

今後も高大接続事業を積極的に展開していく予定ですので、本学との連携をご希望の高等学校があれば、下記の担当者までご連絡ください。

### ■担当者

担当 小ども教育学部 教授 仲 律子（入試広報キャリア部長）

連絡先 メール [naka@m.suzuka-iu.ac.jp](mailto:naka@m.suzuka-iu.ac.jp)

事業名：1-2 三重県商業教育研究会

### ■活動の目的と経緯

三重県商業教育研究会は、県内高等学校の商業科教諭で組織される研究機関です。学習指導要領の改定に伴い、商業科にも地域産業を発展させる職業人の育成が求められており、実践的なアクティブラーニングの導入が推進されています。しかし三重県の商業科においては、いわゆる「検定対策」に偏重気味の傾向が問題となっています。そこで、2018年度から本学教員がこの研究会の「マーケティング・ビジネス経済分野」の研修会講師を務め、研究会活動として8人の商業科教諭とともに三重のアクティブラーニングモデルを模索しています。

### ■活動内容と実績

- ・ 4月 研究会に向けた事務局との調整（テーマ設定・日程調整など）
- ・ 5月 第1回研究会：現在のアクティブラーニングの取り組み・課題の持ち寄り
- ・ 7月 第2回研究会：生徒指導上の工夫・学習のゴールづくりの工夫などの持ち寄り  
アンケート調査の実施：グループワークの実態や工夫点を調査
- ・ 8月 三重県商業教育研究大会：県内商業科教諭へ向けて研究会活動の中間報告を実施  
第3回研究会：三重のアクティブラーニングのマニュアルづくりについて
- ・ 12月 第4回研究会：ベンチマーキング 岐阜県関市立関商工高校への視察研修  
第5回研究会：視察の振り返り・マニュアル（授業ネタ集）づくりについて
- ・ 3月 第6回研究会：報告書の作成・次年度研究会について  
報告書作成および本学研究紀要における中間報告

研究会の成果として、アクティブラーニングの留意点・工夫点（グループの分け方・評価手法など）をまとめるとともに、県内商業科教諭の「授業ネタ集」のデータ共有化を実現することができました。授業ネタ集は教諭の間で活用されるほか、商業教育研究会にて毎年更新・蓄積が行われる予定です。

合わせて、毎回の研究会の終了後には懇親会を開催しました。県内商業科教諭および大学教職員との間での情報交流の場となり、高大接続の機運を高めることにつながりました。



### ■今後の計画

次年度も講師として選任されたことから、商業科のアクティブな学びを引き続き蓄積していくとともに、地域連携や高大接続といった新たなテーマについても模索を進めます。

### ■担当者

担 当 国際人間科学部 准教授 高見啓一

連絡先 メール [info@machi-rmc.com](mailto:info@machi-rmc.com)

## 2. 学生による地域活動

### 事業名：2-1 TSUNAGU プロジェクト

#### ■活動の目的と経緯

創立者の堀榮二の思いや建学の精神である「誠実で信頼される人に」をもとに、「つなぐひとになる」というテーマを設け、建学時から続く国際的視野を育む教育によって、あらゆる問題を抱える地域社会を未来へとつなぐ人材を育て、大学の伝統や精神をつないでいくことを目的とした TSUNAGU プロジェクトを立ち上げました。このプロジェクトには、地域創生を援助する「駅プロジェクト」と、こどもが自らの力で育つことを援助する「つなぐ育ちプロジェクト」の2つがあります。

#### ■活動内容と実績

2018年度のTSUNAGUプロジェクトは、主に以下の事業に取り組みました。

##### ☆駅プロジェクト

- ・ 鈴鹿市 C-BUS や伊勢鉄道などの公共交通を活性化する事業
- ・ 御浜町道の駅パーク七里御浜や紀宝町ウミガメ公園などの道の駅を活性化する事業
- ・ 外国人留学生によるウェブマガジンやインバウンド対応のチラシ翻訳事業

##### ☆つなぐ育ちプロジェクト

- ・ すずたん広場やこどもひろばなどの子育て支援事業
- ・ 栄養教育、ケガの予防教育、性教育、いのちの教育などの教育支援事業
- ・ つなぐ育ち勉強会やつなぐ育ち研修会などの支援者のスキルアップ事業

詳しくは、2018年度TSUNAGUプロジェクト年間報告書をご覧ください。



TSUNAGU パンプ



鈴鹿市長表敬訪問



こどもひろば事業

#### ■今後の計画

2020年度入試からは、AO入試（総合型選抜）「TSUNAGUプロジェクト型」（全学部共通）入試を導入します。これにより、新学習指導要領の主体的・対話的な深い学びに対応できるような高大接続の事業を進め、高等学校から大学への学びの連続性を確保することに取り組みます。

また、自治体や企業との結びつきを強め、他業種の方との関係性の中で、学生たちが育つ環境を作っていきたいと考えています。

#### ■担当者

担当 こども教育学部 教授 仲 律子（TSUNAGU プロジェクトリーダー）

連絡先 メール [naka@m.suzuka-iu.ac.jp](mailto:naka@m.suzuka-iu.ac.jp)

## 留学生関連事業

事業名：2-2 グローバルスタディ

### ■活動の目的と経緯

地域社会における多文化共生社会実現に向けた取り組みとして、国際経験の豊富な留学生・日本人学生を地域の幼稚園、小学校、中学校、高等教育学校などの県内教育機関、行政、国際交流団体などに派遣しています。

本事業は、地域の皆さまに外国に対する知識と理解を深めてもらうだけでなく、参加する本学学生の自己啓発を促すための「教育の場」としても位置づけています。学生たちが本学で学ぶ国際学の専門性と国際経験を活かしながら、地域との交流・協働の中で、責任感、自律心、創造力、コミュニケーション能力などを高めることを目的としています。

### ■活動内容と実績

・通年 国際交流・異文化理解活動の実施

今年度は9箇所において、全 13 回行いました。

内容としては、高校での中国語・韓国語の語学講座、小学校での国際交流授業などを行いました。学生たちは、母国の文化や習慣などを説明するためにパワーポイントなどで視覚資料を作成し、写真を見せながら発表しました。

①スリランカの学生が本正寺に、②中国や韓国の学生が享栄高等学校に、③ブラジルにつながる学生が鈴鹿国際交流協会に、④ブラジルにつながる学生があげぼの高等学校に、⑤ネパールやペルーの学生が鈴鹿市立郡山小学校に、⑥韓国の学生がいなべ市国際交流協会に、⑦ベトナム、インドネシア、ネパール、フランスの学生が四日市市立常盤西小学校に、⑧ベトナム、インドネシア、ネパール、フランス、韓国の学生が津市立村主小学校に、⑨ベトナムや中国の学生が郡山こども教室に派遣され、地域の方に母国の文化や習慣などの紹介をしました。



### ■今後の計画

引き続き、県内教育機関、行政、国際交流団体などからの学びのニーズに応えつつ、地域社会と本学学生の双方にとってより充実した学びとなることを目指し、事業展開を進めていきます。国際交流協会をはじめ、様々な団体との国際交流を検討しています。

### ■担当者

担当 教務・学生支援課 上田 千華

連絡先 メール [uedach@suzuka-jc.ac.jp](mailto:uedach@suzuka-jc.ac.jp)



事業名：2-3 多文化地域交流フェスタ

### ■活動の目的と経緯

鈴鹿大学開学当初より世界の国から留学生を受け入れ、外国人学生をはじめとした学生たちと地域住民との交流事業を継続してきましたが、それらをまとめて2017年度より（公財）中島記念国際交流財団より助成を受け、日本学生支援機構留学生地域交流事業として、鈴鹿国際交流協会と共に「多文化地域交流フェスタ」を開催しています。2018年度は、「多文化交流ワークショップ」「第21回外国人日本語スピーチコンテスト」「第4回外国につながる人の母語・継承語スピーチ発表会」「多文化交流パーティー」を実施しました。

### ■活動内容と実績

7月21日（土）多文化交流ワークショップ 鈴鹿大学 B302 教室 28名参加

10月18日（土）第21回外国人日本語スピーチコンテスト学内大会 鈴鹿大学国際文化ホール

10月28日（日）第21回外国人日本語スピーチコンテスト 本選 鈴鹿大学国際文化ホール

11月24日（土）第4回外国につながる人の母語・継承語スピーチ発表会

鈴鹿大学国際文化ホール

11月24日（土）多文化交流パーティー 鈴鹿大学学生食堂

\*『多文化交流フェスタ2018報告書』参照



外国人日本語スピーチコンテスト



母語・継承語スピーチ発表会



多文化交流パーティー

### ■今後の計画

外国人学生をはじめとした学生と地域住民が、外国人の問題、学生の問題、そして地域の問題についてお互いに理解し、それぞれが生き生きと暮らせる地域にするための解決方法を見いだしていけるよう、今後も多様な人々が交流する場を設け、真の国際人を養成し、よりよい地域づくりに貢献するための取り組みを続けていきます。

### ■担当者

担 当 総務課 および 国際人間科学部 舟橋宏代・棧敷まゆみ・富本真理子

連絡先 メール [tabunka@suzuka-jc.ac.jp](mailto:tabunka@suzuka-jc.ac.jp)

事業名：2-4 鈴鹿大学インターナショナルサロン（わいわい春まつり）

### ■活動の目的と経緯

鈴鹿国際交流協会が毎年 4 月に鈴鹿市内のショッピングセンターである鈴鹿ハンターで開催している「わいわい春まつり」に、鈴鹿大学は「鈴鹿大学インターナショナルサロン」を出展しています。外国人学生には、日頃話す機会のない方々と対話し、自国について知ってもらう機会として、地域の方々には、同じ地域で生きる外国人学生の背景やことば、文化にふれることができる機会となります。グローバル人材として外国人学生を育成し、地域の方々と協働することにより、ダイバーシティに富むこの地域の特性を活かす道を探求し、発信していくための基礎を築くことを目的としています。

### ■活動内容と実績

活動日：2018年4月22日（日）10：00～15：00 鈴鹿ハンター

留学生をはじめとした外国人学生たちが、自国のことばや文化に関するクイズを、ショッピングセンターを訪れた地域の方に出しました。3カ国のクイズに正解された方に大学グッズを受け取ってもらう、というクイズラリー形式で、自国について地域の方々と話しました。

外国人学生はクイズを作る過程で、日本人が自国に関して知っていること、興味を持ちそうなことについて考え、説明も準備する中で、自国に関する自分自身の知識や思いを整理することができ、思っていたより多くの方が自国に興味を持ってきて、多くの話げできたことを喜んでいました。また、地域の方々からは、外国人学生は日本語で話すことが問題ないばかりではなく、未知の世界を描き出し、それを共有できたという声をいただいています。



### ■今後の計画

引き続き、より多くの方に関心を持ってもらい、気軽に参加していただけるようなあり方をめざします。こうして交流する場でいただいた多くの声を、今後とも大学の国際交流事業に活かしていきたいと考えています。

### ■担当者

担当 総務課 および 国際人間科学部 教授 舟橋宏代

連絡先 メール [funahahi@m.suzuka-iu.ac.jp](mailto:funahahi@m.suzuka-iu.ac.jp)

事業名：2-5 郡山まちづくり協議会との共催餅つき大会

### ■活動の目的と経緯

日本人学生と留学生が共に送る大学生生活。それは、大学近くの地域住民の皆様方の温かい支えがあればこそ成り立っています。そこで、FSA（留学生支援）チームは郡山まちづくり協議会の方々とさらに交流を深め、互いに支え合いながら生きていくことを目指し、餅つき大会を企画しました。餅つき大会は留学生にとって、日本の伝統文化を知り、体験してもらう良い機会となっています。

### ■活動内容と実績

餅つき大会の流れと活動内容は、以下のとおりです。

- 餅米を洗米し、2日間水に浸す。
- 餅つきの道具一式は郡山公民館より借用する。
- 当日の朝、会場（食堂1F ほっとルーム前）のセッティングをする。
- 餅つき開始（10：30）→ 玉だし（11：00頃）→  
お餅を食べながら交流（11：00頃より）→ 終了（13：30）→ 片付け
- お餅の味（きなこ、あんこ、大根おろし、砂糖醤油）

今年の餅つき大会はいつもと違って、世間では珍しいとされる玄米のお餅となりました。玄米餅の食感は少し歯ごたえがあって、すぐに噛み切れるところがよいという意見が数多く寄せられました。また、とても健康によいとシニアの学生や女子学生からも好評価でした。郡山まちづくり協議会の方々も「おいしい」と言ってくださり、楽しそうに留学生と一緒に餅つきや談笑をする姿が見られました。



### ■今後の計画

引き続き、郡山まちづくり協議会の方々と協力させていただき、来年度も実施する予定です。

### ■担当者

担当 入試広報キャリア課 吉田 翔平（FSA チーム）

連絡先 メール [yoshidas@suzuka-jc.ac.jp](mailto:yoshidas@suzuka-jc.ac.jp)

## クラブ・サークル

事業名：2-6 災害ボランティアサークル「Bell Amigo」

### ■活動の目的と経緯

災害ボランティアサークル「Bell Amigo」は、災害が発生した時の住民の支援や学生向けの啓発活動等を行うために活動を開始しました。本学は約 10 カ国の留学生が在籍する「多文化共生キャンパス」です。その特徴を生かして、外国籍の住民に対して災害時の通訳や避難誘導ができるように活動ができればと思っています。サークルの名前は「Bell Amigo（ベルアミーゴ：略称ベルアミ）」で、鈴鹿の鈴「Bell」と仲間「Amigo」を組み合わせています。

### ■活動内容と実績

- ・東日本大震災ドキュメンタリー映画「Life～生きてゆく」上映会・・・5月13日に「津波」と「原発事故」に見舞われた福島で、「命」の存在を伝えるために製作された映画の上映会の実施と、笠井千晶監督とベルアミーゴのメンバーがアフタートークを行いました。
- ・広島県呉市災害ボランティア・・・8月28日～31日に、メンバー3名が広島県呉市の被災地でボランティアとして活動を行いました。みえ災害ボランティアセンターが主催する《みえ発！ボラパック》第7便に参加して、呉市での土砂の除去や庭の清掃などに従事しました。
- ・大学祭企画展・・・10月27・28日に開催された大学祭で、2016年度設立以降の活動報告を行いました。映画上映会、災害ボランティア、オープンキャンパスでのペタンクという遊びの紹介など、これまでの活動の軌跡を多くの来場者に見てもらうことができました。
- ・災害ボランティアセンター設置・運営訓練・・・2月24日に鈴鹿市災害ボランティアセンター設置・運営訓練が鈴鹿市内で行われ、メンバー3名が参加しました。災害時には本学に災害ボランティアセンターのサテライトが設置されますので、ノウハウを学ぶよい機会となりました。



呉市災害ボランティア



大学祭での発表



災害ボランティアセンター訓練

### ■今後の計画

研修やボランティア活動経験を生かし、チームとして災害時の訓練を指揮できるようになりたいと思います。次年度は、本学で鈴鹿市の災害ボランティアセンターの設置・運営訓練が開催される予定ですので、大学のCOCセンターと協力しながら、実施したいと考えています。

### ■担当者

担 当 こども教育学部 教授 仲 律子（災害ボランティアサークル・ベルアミーゴ顧問）

連絡先 メール [naka@m.suzuka-iu.ac.jp](mailto:naka@m.suzuka-iu.ac.jp)

事業名：2-7 こどもボランティア部

### ■活動の目的と経緯

こどもボランティア部は、地域の人たちやこどもたちのために役立ちたい、喜んでもらいたいという思いから、ボランティア活動を開始しました。また、クラブの名前は、偶然なことに部員全員がこども教育学部に所属していることから、こどもボランティア部という名前に決定しました。

### ■活動内容と実績

- ・いのちの教育人形劇「しあわせの種」上演

5月26日に、東員町総合文化センター2F 講習室にて、人形劇「しあわせの種」を上演しました。これは、16歳の少年が交通事故に遭い、遺された家族・友人が想い、考えた実話をもとにした人形劇です。実際に交通事故で息子さんを亡くされた方のお話を聞かせてもらい、私たち自身も命の大切さを実感することができ、それと同時に多くの人に伝えたいと思いました。そして、話の内容をもとに人形を手作りし、私たちが劇を演じ、命の大切さを社会に発信できました。

- ・郡山こども教室のお手伝い

放課後に公民館などを利用して、こどもの安全・安心な居場所づくりを進める目的で開室され、地域のボランティアの方が運営している郡山こども教室のお手伝いをしました。7月4日、10月10日に、七夕飾りの制作やお手製の魚釣りなどをして遊びました。

- ・児童養護施設里山学院のこどもたちへのクリスマスプレゼント

里山学院のこどもたちにクリスマスプレゼントを贈るために募金活動をし、12月24日に直接渡しに行きました。そして、バッコーというニュースポーツやカルタなどをしてこどもたちと楽しい時間を過ごすことができました。



「しあわせの種」上演



郡山こども教室



里山学院のこどもたちにクリスマスプレゼント

### ■今後の計画

次年度は、引き続き上記の活動に尽力し、大学の近隣の小学校で人形劇「しあわせの種」を上演する予定です。また、児童養護施設里山学院のこどもたちに、クリスマスプレゼントを届けたいと思います。地域のボランティア活動などの新たな活動にも積極的に参加していきたいと考えています。

### ■担当者

担当 こども教育学部 教授 仲 律子（こどもボランティア部顧問）

連絡先 メール [naka@m.suzuka-iu.ac.jp](mailto:naka@m.suzuka-iu.ac.jp)

## 事業名：2-8 クッキング同好会 Tomato の食育活動

### ■活動の目的と経緯

クッキング同好会 Tomato は、三重県教育委員会が年度初めに募集する高等教育機関の専門的な知識や技能を活かす教育プログラム「まな便」に登録し、夏休み期間中を活用して小学生対象の食育活動や調理実習を提供しています。「まな便」を通して公民館などから依頼を受けると、企画から実施まで学生が主体となって行っています。

### ■活動内容と実績

8月11日に菟野町放課後子ども教室で親子料理教室を行いました。希望者が多かったため、午前を高学年、午後を低学年として実施しました。高学年はハンバーグ、マッシュポテト、薄焼き卵、フルーツ白玉を作り、ハンバーグなどでクマが布団をかけて寝ている様子に盛り付けをして楽しみました。低学年は食パンを使ってキャンディロールサンド、エッグタルトを作りました。調理操作は子どもの調理技術を考慮して、切る、こねる、つぶす、焼くなどの難易度を調整し、またどの子も何かしらのやることやできることがあるようにレシピを考えました。学生たちは試作を学内で何度か行いレシピを作りましたが、いざ子どもたちがやってみると、思っていたものと違う状態になったりする場面がありました。そういうハプニングも学生たちのよい学びになったようです。

参加した保護者からは、「普段なかなかキッチンに来ない子でしたが、親子料理教室に参加してから、自分で進んで手伝うと入って来るようになりました。かえって時間がかかりますが、子どもの気持ちを大事にと思い、少し我慢して任せています。うれしい我慢ですが・・・」「教室の様子を家でうれしそうに話し、親子のいい思い出ができました」などの感想がありました。子どもたちからも、おいしかった、もっと作りたい、家でもお母さんの手伝いをしたいなどと意見がありました。

菟野町放課後子ども教室での親子料理教室はこれで3年目になります。毎年学生の学びの機会を与えてくださる菟野町放課後子ども教室のスタッフの皆さまに感謝いたします。



### ■今後の計画

引き続き「まな便」に登録します。そして、依頼があった場合は可能な限り引き受け、活動を行っていきたいと考えています。

### ■担当者

担当 短期大学部 准教授 乾 陽子（クッキング同好会 Tomato 顧問）

連絡先 メール [inuiy@suzuka-jc.ac.jp](mailto:inuiy@suzuka-jc.ac.jp)

事業名：2-9 学生広報部 SUZUKA9（スズカナイン）

### ■活動の目的と経緯

学生広報部 SUZUKA9 は、学生がアイデアを出し合ってイベントを企画し、学生が学生に呼びかけることで、大学を活性化させることを目的として 2017 年度から募集を始めました。

SUZUKA9 が企画したイベントを実施していく中で、さまざまな経験から知識を得て、コミュニケーション力、企画力、制作力、実行力などの社会人として必要な実践的な能力を養うためのキャリア支援を行う目的もあります。

また、学生が大学に関わり活動することで、より大学を身近に感じ、大学側も学生がどのように考えているかを理解することができるという、本学と学生との相互理解を深めるパイプ役として、SUZUKA9 が役割を果たしています。

メンバーは、各学部から推薦された 2～3 名の学生が SUZUKA9 となり、活動します。1 年ごとにメンバーが入れ替わりますので、毎年違った SUZUKA9 が、学部を越えて協力しながら、大学・短期大学部の広報に携わっています。

### ■活動内容と実績

- ・オープンキャンパスなどの企画・運営・・年に 3 回開催される全学を挙げて実施するオープンキャンパスの企画・運営を行っています。「SUZUKA9 と話そう!」「伊勢鉄道でオープンキャンパス」「メイクアップ講座」など、来場者に喜んでもらえるように工夫をしながら実施しました。
- ・学生広報誌「ComCam」の編集・発行・・学生が編集長となり、年に 2 回、学生広報誌を発行しています。オープンキャンパスや大学祭の報告、サークルの紹介などが掲載されています。
- ・SNS での情報発信・・ 学生目線で、Twitter や Instagram での情報発信を行っています。
- ・広報に関する勉強会の参加・・ 進学情報を提供する会社から広報に関する研修を受けています。



オープンキャンパス



ComCam



Instagram

### ■今後の計画

次年度の SUZUKA9 が活動を始めています。オープンキャンパスの企画を話し合ったり、学生広報誌「ComCam」、SNS、動画撮影などの担当を決めたり、研修を受けたりしました。スタディサプリの OC ストーリーズには、彼女たちの動画もアップされていますので、是非ご覧ください。

### ■担当者

担 当 こども教育学部 教授 仲 律子（入試広報キャリア部長）

連絡先 メール [naka@m.suzuka-iu.ac.jp](mailto:naka@m.suzuka-iu.ac.jp)

## ボランティア活動

事業名：2-10 津市立千里ヶ丘小学校での学習支援ボランティア

### ■活動の目的と経緯

2003 年度後期から本学学生による津市立千里ヶ丘小学校での学習支援ボランティアを開始しました。当時の校長の「気軽に小学校に手伝いに来てくれる大学生がいたら助かるんやけどな～」という一言から始まり、16 年間続いています。活動内容は、特別な支援が必要な子どもたちを支援することが主で、大学の授業の空き時間を利用して参加できるボランティアです。これまで延べ 300 名以上の学生が参加しました。

### ■活動内容と実績

学期の始めにボランティア説明会を開き、千里ヶ丘小学校の教務主任の先生から、学校の概要・特徴、子どもたちの様子、ボランティアの内容、注意事項などの説明があります。その後、学生は初回時にスーツを着て小学校に出向き、教務主任から学校に着いてから帰るまでの流れや施設の説明、担当する学年・クラスの様子、実施報告書の記入の方法などを教えてもらい、2 回目から普段着でボランティアに参加します。

2018 年度は、15 名の学生（国際人間科学部 8 名、こども教育学部 7 名）が参加しました。この内、留学生が 4 名、外国につながる学生が 2 名いて、母国の文化などを子どもたちに話す機会もあるようです。

学生は、子どもたちから「先生」と呼ばれ、授業の補助をすることはもちろんですが、休み時間に一緒に遊んだり、運動会などの行事を手伝ったりと、様々な場面で活躍してくれています。中には、時間さえあれば小学校に出向き、まるで講師のように職員室に出入りする学生もいます。

千里ヶ丘小学校の山川校長からは、「子どもたちが安心安全な学校生活を送るためには、多くの大人たちが目配りをする必要があり、学生たちにボランティアに来てもらえることは、大変助かっています。鈴鹿大学の学生は、礼儀正しく、子どもたちに寄り添って面倒をみてくれるため、全体的に意識の高い方が多い印象です。学生のみなさんには、本校で過ごす時間を、多くの学びを得る機会のある場としてほしいです」という感想があり、お互いにとって有意義な取り組みであると考えています。



### ■今後の計画

次年度も継続して実施し、前期、後期の始めには、千里ヶ丘小学校の教務主任の先生によるボランティア説明会を開き、新規の募集を行う予定です。

### ■担当者

担 当 こども教育学部 教授 仲 律子（授業科目「ボランティア活動」担当）

連絡先 メール [naka@m.suzuka-iu.ac.jp](mailto:naka@m.suzuka-iu.ac.jp)



### 3. 地域連携

#### 事業名：3-1 公開講座

##### ■活動の目的と経緯

教員の幅広いリソースを活用し、私立大学等改革総合支援事業補助金の要件を満たす講座数（大学 25 講座・短大 20 講座 計 45 講座）を開講しました。2018 年度は、受講者に分かりやすいよう「生涯学習・教養シリーズ」「教養・クッキング講座」「スポーツ・健康シリーズ」「国際・観光シリーズ」「英語講座」「音楽療法」「その他資格講座（教員採用・管理栄養士）」の 카테고리に分けて企画を行いました。

##### ■活動内容と実績

- ・通年 広報活動の実施（鈴鹿市報・学校向けチラシ・公民館等へのチラシ配置・HP 掲載 など）
- ・5～2 月 2018 年度公開講座の実施
  - ★講座実績は巻末資料（2018 年度公開講座一覧）参照
- ・10～2 月 2019 年度公開講座の企画

76 講座を開講し、のべ 586 名の受講者数となりました。特に人気があったのは、パン教室・おとこの料理教室といったクッキング講座、親子でイングリッシュ・英会話といった英語講座、シニアのための音楽療法講座でした。またオープンキャンパスと連動させての夏休みこども向け講座が好評を呈し、多くの親子でにぎわいました。

年度はじめから鈴鹿市報での情報発信をこまめに行ったことなどから、一定の集客を得ることができました。しかし受講者数が定員に満たない講座も多く、それでも不開講にせずに実施したことから、講座の進行や運営に課題を残しました。



##### ■今後の計画

引き続き、地域住民の学びのニーズに応えつつ、本学の特長を出せる事業展開を進めていきます。また広報活動を見直し積極的な集客を図るとともに、開講決定の最少人数を設定し、適切な講座の進行・運営を目指していきます。

##### ■担当者

担 当 総務課 および COC（地域連携）・国際交流センター長 乾 陽子

連絡先 メール [inuiy@suzuka-jc.ac.jp](mailto:inuiy@suzuka-jc.ac.jp)

## 事業名：3-2 授業公開

### ■活動の目的と経緯

開かれた大学、地域に貢献できる大学を目指し、鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部では、正規授業を地域の皆さまに公開しています。聴講生として受講をし、後に本学に入学した場合は、受講した科目の単位を認定するものです。また、年度末に修了式を開催し、授業 15 回のうち 10 回以上出席した方に修了書を授与いたします。毎年多くの地域住民の皆さまが生涯学習の場として利用してくれています。

### ■活動内容と実績

- ・前期 国際人間科学部 22 科目、こども教育学部 2 科目、短期大学部 5 科目、合計 29 科目を公開しました。受講者数は、36 名（延べ 45 名）でした。
- ・後期 国際人間科学部 23 科目、こども教育学部 4 科目、短期大学部 2 科目、合計 29 科目を公開しました。受講者数は、36 名（延べ 43 名）でした。

前期・後期を合すると公開授業数は 58 科目、受講者人数は延べ 88 名でした。実際に受講した科目は、社会科学系と人文科学系（特に語学系）が多く、これらに人気がありました。

2018 年度のまとめとして、2019 年 1 月 23 日に、前期・後期の授業公開修了式及び交流会を実施しました。修了者のうち単位の認定希望者の 7 名には、成績通知書が交付されました。皆さま大変優秀な成績を収められていました。受講生の皆さまの感想は、「とてもわかりやすかった」「わかりやすかった」が 91%を占め、満足度の高い結果を得ることができました。



修了式 学長式辞



代表者への修了書授与



修了式後の交流会

### ■今後の計画

引き続き、地域住民の学びの場として、正規授業を公開していきます。更なる集客を図るため、2019 年度は「子育て・孫育て支援科目」「大学院科目」を新たに加え、前期 38 科目、後期 36 科目、合わせて 74 科目の授業公開をします。受講生の満足度アップのため、公開する授業科目の拡大化、適切な受講生への対応、事業の進行・運営を目指していきます。

### ■担当者

担 当 総務課 および 教務・学生支援部長 久保 さつき  
連絡先 メール [kubos@suzuka-jc.ac.jp](mailto:kubos@suzuka-jc.ac.jp)

### 事業名：3-3 履修証明プログラム

#### ■活動の目的と経緯

2007年度の学校教育法の改正により、大学、大学院、短期大学、高等専門学校、専門学校における「履修証明制度」が創設されました。これは、大学などの積極的な社会貢献を促進するため、学生を対象とする学位プログラムの他に、社会人などの学生以外の方を対象とした、一定のまとまりのある学習プログラム（履修証明プログラム）を開設し、その修了者に対して法に基づく履修証明を交付できるという制度です。2018年度は教員の幅広いリソースを活用し、5つのコースからなる履修証明プログラムを企画しました。

#### ■活動内容と実績

5つのコースは以下の通りです。いずれも授業科目6科目が用意されています。

- ・「投資&サービス産業」で学生ベンチャーコース（鈴鹿大学）  
「MIE学生ベンチャーサミット」の主宰校である本学が提唱する、サービス産業の企業や資金運用（投資）に対応したプログラムです。
- ・ツーリズム・スペシャリストコース（鈴鹿大学）  
観光学を初めて学ぶ方を対象にした観光のおもしろさ、6次産業による地域の活性化などの最新動向を学ぶプログラムです。
- ・日本語教授法コース（鈴鹿大学）  
日本語を母語としない方に対して、日本語を教授するための基礎を築くことを目的としたプログラムです。
- ・こども教育コース（鈴鹿大学）  
2017年度に新設された「こども教育学部」の実践的授業科目に触れ、「こども教育」を楽しく学ぶプログラムです。
- ・音楽療法コース（鈴鹿大学短期大学部）  
三重県内で唯一音楽療法士の資格が取得できる本学で、「音楽療法」の一端を学ぶプログラムです。

以上のコースを設定し、2018年3月より受講生の募集をしましたが、残念ながら、応募者は0名でした。過去3年間の授業公開の受講者は60~80名であるのに対し、履修プログラムの受講者は0~3名であり、大変集客率の低い事業となっています。多くの課題を残すこととなりました。

#### ■今後の計画

地域住民の学びのニーズに応えつつ、本学の特長を出せる事業展開を進めていきます。2019年度は、「ビジネス」「観光」「音楽」「語学①中級」「語学②上級」「子育て・孫育て支援」の6プログラムを準備し、受講生の募集を開始しました。

#### ■担当者

担 当 総務課 および 教務・学生支援部長 久保 さつき  
連絡先 メール [kubos@suzuka-jc.ac.jp](mailto:kubos@suzuka-jc.ac.jp)

事業名：3-4 COC＋／高等教育コンソーシアムみえ

### ■活動の目的と経緯

COC＋：三重県内すべての高等教育機関が一丸となって、若年層の県内定着率の向上や新規雇用の創出を目的としています。その中で、地域のイノベーションを推進できる三重創生ファンタジスタの育成に取り組んでいます。

高等教育コンソーシアムみえ：三重県内高等教育機関相互並びに県内高等教育機関と地域との連携を促進することにより、県内高等教育機関の教育、研究、地域貢献の各機能の向上を図り、人口減少の抑制及び地域の活性化を実現することを目的として発足しました。

※2020年度、COC＋は、高等教育コンソーシアムみえへ機能が移転します。

### ■活動内容と実績

☆三重創生ファンタジスタの育成（COC＋）

学生たちに三重県のことをよく知ってもらおうと、県内の学生であれば誰でも受講できる三重創生ファンタジスタオリジナル科目を開講し、本学からも、2017年度から学生が参加しています。また、今年度は、県内初の外国人学生が本学から参加しました。三重県総合博物館などで、三重を知る座学と、フィールドワーク（伊勢・志摩）で地域の方々取材、その成果を事後発表会へとつなげるという3ステップは、ハードルは高いですが、学生たちは、他大学の学生との学びで、大きく成長することができました。この体験が、のちのキャリア形成につながれば幸いです。



MieMu で三重を知る！



海女小屋で体験



成果発表会

☆単位互換制度（高等教育コンソーシアムみえ）

2019年度から、鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部の学生が、県内の高等教育機関（大学・短大・高専）で、指定された科目について履修ができるようになります。

### ■今後の計画

今後も県内の高等教育機関と連携を深め、協力しながら、本学の学生にとっても、メリットのある取組をいたします。県内への就職に有利な三重創生ファンタジスタの資格取得者が増えて、地域人材育成・地域貢献できる大学を目指していきたいです。

### ■担当者

担当 国際人間科学部 観光ビジネス領域 教授 富本真理子

連絡先 メール [tomimotom@m.suzuka-iu.ac.jp](mailto:tomimotom@m.suzuka-iu.ac.jp)

事業名：3-5 SUZUKA 産学官交流会

### ■活動の目的と経緯

鈴鹿大学はSUZUKA 産学官交流会（事務局：鈴鹿商工会議所）のプロジェクトへの協力を行っています。2018 年度は COC・国際交流センターの中に「SUZUKA 産学官交流会部門」の担当者を置き、重点事業として位置づけられ、下記の事業を主に実施しています。

- ①ランニングバイクプロジェクト：ランニングバイクパンフレットの作成・フォーラムの開催
- ②シャクヤクプロジェクト：シャクヤクまつりの実施協力
- ③スイーツプロジェクト：鈴鹿サブシなどの開発
- ④新鈴鹿バーガーPR プロジェクト：F バーガーの学生による SNS 情報発信

### ■活動内容と実績

- ・通年 役員会・総会への出席
- ・5月 シャクヤクまつりの実施協力
- ・6～12月 ランニングバイクパンフレットおよびフォーラム等についての調整
- ・11～2月 学生による新鈴鹿バーガー（F バーガー）PR の企画調整
- ・1月 鈴鹿市長への表敬訪問実施（ランニングバイクパンフレットの完成）
- ・3月 F バーガーの SNS 情報発信開始

SUZUKA 産学官フォーラム（ランニングバイク鈴大 CUP）

ランニングバイクの成果は高く評価されており、SUZUKA 産学官交流会の20周年記念事業では市内園へのバイク寄贈が行われることとなりました。（※ランニングバイクプロジェクトの詳細は、「子育てイノベーションセンター」の頁を参照ください）

新鈴鹿バーガーPR 事業については、学生の積極的な参画を得ることができたほか、新しいモータースポーツの売り込み方の可能性を見出すことができました。参画している学生のほとんどが、商工会議所で「販売士検定」を受験しており、「学びと実践」の「知の循環」が実現しています。



### ■今後の計画

教員などのリソースが限られる中において最大限の効果が出るよう、引き続き「学生のメリット」を意識し、内容や日程について主導的な関わりを行っていきます。

### ■担当者

担 当 COC・国際交流センター SUZUKA 産学官交流会担当 高見啓一

連絡先 メール [info@machi-rmc.com](mailto:info@machi-rmc.com)

## 事業名：3-6 鈴鹿市社会福祉協議会との防災関連事業

### ■活動の目的と経緯

鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部は鈴鹿市社会福祉協議会と災害発生時における相互協力に関する協定書を締結しています。鈴鹿市内において災害発生時に、迅速かつ効率的に被災者に対する支援活動を行うことができるように相互に連携協力することで、被災者などの生活安定に寄与することが目的です。そのため、平時から訓練を行うことは意義があります。また学生ボランティアを参加させることで、学生自らの課題発見と社会貢献意識の醸成を図れると考えています。

### ■活動内容と実績

- ・ 6月22日 第1回鈴鹿市災害ボランティアセンター連絡会 出席
- ・ 7月18日 鈴鹿市社会福祉協議会職員による本学「鈴鹿学」での講義 実施
- ・ 7月22日 2018年7月豪雨災害義援金街頭募金活動 参加 鈴鹿ハンターにて
- ・ 9月30日 鈴鹿市総合防災訓練時 災害ボランティアセンター運営訓練 台風のため中止
- ・ 12月12日 第2回鈴鹿市災害ボランティアセンター連絡会 出席
- ・ 2月24日 鈴鹿市災害ボランティアセンター設置・運営訓練 参加

今年度の活動には様々な学生と教員が参加しました。社会福祉協議会との取り組みではありませんが、災害が起こった地域にボランティアとして出向き、現地で土砂のかき出し作業などの活動もしてきました。鈴鹿市災害ボランティアセンター設置・運営訓練では、鈴鹿市が被災し、ボランティアを受け入れる側の立場での訓練でしたが、実際にやってみると、多くのボランティアをニーズに沿って振り分けたり、間違いなく移送したりするのは大変でした。実際に災害が起こったときには本学に災害ボランティアセンターのサテライトセンターが設置されますので、今回の訓練はノウハウを学ぶよい機会となったとともに、課題も多く見つけられました。この訓練を次に活かしたいと学生からも意気込みが発表されました。



### ■今後の計画

2019年度は本学敷地内において、鈴鹿市災害ボランティアセンターサテライト設置・運営訓練を行う予定です。鈴鹿は全国的にみて先進的な訓練を行っているようです。今年度の反省を踏まえ、今後何ができるのか、鈴鹿市社会福祉協議会や関連団体と協力して取り組んでいきたいと思えます。

### ■担当者

担当 総務課 および COC（地域連携）・国際交流センター長 乾 陽子

連絡先 メール [inuiy@suzuka-jc.ac.jp](mailto:inuiy@suzuka-jc.ac.jp)

事業名：3-7 鈴鹿市市民アカデミー「まなベル」

### ■活動の目的と経緯

「すずか市民アカデミー『まなベル』」を開催することによって、鈴鹿市民の「さらに詳しく知りたい」という専門的分野への学習ニーズに応え、学びの楽しさを実感してもらい、生涯学習をさらに深めていくことを目的として行っています。

「まなベル」は、鈴鹿市から業務委託という形式で鈴鹿市内の4高等教育機関が行っている事業です。鈴鹿市及び各教育機関が連携協議したテーマに沿ってそれぞれの特徴を活かした専門性のある教育内容を分かりやすく楽しい講座として提供し進めています。

### ■活動内容と実績

今年度テーマ「学ベル情報館 ここからはじめる学びの一步」

- 2018年9月24日（月） 10：00～11：30 （会場：本学 B103）

講 座：ペット動物と動物愛護を考える

（ねらい：動物愛護週間にペット動物の愛護について考える）

講 師：短期大学部 准教授 櫻井 秀樹

参加人数：18名

- 2018年9月28日（金） 10：00～11：30 （会場：本学 B302）

講 座：早わかり心理学—シニア編—

（ねらい：充実した生活を送るために高齢期の心理を知る）

講 師：こども教育学部 准教授 杉山 佳菜子

参加人数：60名



### ■今後の計画

引続き鈴鹿市の要望（テーマ）及び鈴鹿市民の学びのニーズを応えた講座を提供していきます。また、本学の特徴をいかした専門的でありながら、それでいてわかりやすい生涯学習講座を目指していきます。

### ■担当者

担 当 総務課 柳田 佳奈江

連絡先 メール [hojin@kyoeigakuen.net](mailto:hojin@kyoeigakuen.net)

事業名：3-8 みえアカデミックセミナー

### ■活動の目的と経緯

三重県内にある全ての高等教育機関が有する高度な学びと県民の方々とをつなぐことを目的とした公開講座セミナーです。各高等教育機関の特色を生かしたバラエティ豊かなセミナーであり、新しい学びの発見につながるとともに、地元の各高等教育機関の特色や地域への取り組みなどを知ってもらうことができるよい機会となっています。

### ■活動内容と実績

- ・2018年7月18日(水) 13:30~15:00 (会場：三重県文化会館レセプションルーム)  
講 座：買い物が楽しくなる！リテール・マーケティングで学ぶ「お店の裏ワザ」  
講 師：国際人間科学部 准教授 高見 啓一  
参加人数：110名
- ・2018年7月21日(土) 13:30~15:00 (会場：三重県文化会館レセプションルーム)  
講 座：我が国の西洋音楽が巡った道  
一童謡・唱歌・歌謡曲を歌う音楽療法の現場から振り返る一  
講 師：短期大学部 教授 鶴飼 久美子  
参加人数：84名



### ■今後の計画

引き続き、県民の学びのニーズに応えた講座を提供していきます。また、本学の特徴をいかした専門的でありながら、それでいてわかりやすい講座を目指していきます。

### ■担当者

担 当 総務課長 生川 幸紀

連絡先 メール [hojin@kyoeigakuen.net](mailto:hojin@kyoeigakuen.net)



事業名：3-9 亀山市市民大学キラリ人材育成事業

### ■活動の目的と経緯

亀山市教育委員会では、地域づくりを担う人材の育成事業である市民大学「亀山人キャンパス」の2019年度開学に向けて、検討会議を進めています。本学と亀山市教育委員会とは連携協定を締結していることから、本学教員が副委員長として参画しました。検討会議では、各種の助言と合わせて、講座の企画やプレセミナーのコーディネーターなどを務めています。

### ■活動内容と実績

- ・ 9月 会議に向けた事務局との調整（方向性の確認・日程調整など）
- ・ 10月 第1回会議：市民大学の方向性について
- ・ 11月 第2回会議：市民大学のコース設定について
- ・ 12月 第3回会議：市民大学の開講講座について
- ・ 2月 第4回会議：市民大学の名称・実施計画およびプレセミナーについて
- ・ 3月 市民大学プレセミナーの開催

検討会議の結果、市民大学では「地域づくりを担う人材育成を中心に」「講座の評価指標は集客人数ではなく活躍の度合いで行う」という方針が貫かれました。「学んで終わり」ではなく、学んだあとに地域活動で活躍することができる人を育成していけるよう、講座が企画されています。

その中でも新たな試みの一つとして、市民大学コースの1つに「まちの起業人養成講座（コミュニティビジネス講座）」が設置され、本学教員および大学発ベンチャー（株）鈴りん探偵舎が講座の企画・運営を担うことになりました。

3月10日に開催されたプレセミナー「あなたの学びが亀山市を創る」では、（株）鈴りん探偵舎の学生がグループワークのコーディネーターを務めました。新たな年齢層も加わった新しい学びに、参加者の方々も期待を膨らませていました。



### ■今後の計画

2019年度の「まちの起業人養成講座」では、市民が趣味・学習の延長として地域のビジネスを起こしていけるよう、ベンチャー企業の育成で実績のある鈴鹿大学として専門的に支援していきます。地域で起業したいという学生の参加・地域住民との交流も期待されています。

### ■担当者

担 当 国際人間科学部 准教授 高見啓一

連絡先 メール [info@machi-rmc.com](mailto:info@machi-rmc.com)

事業名：3-10 小中学生英語スピーチ発表会

### ■活動の目的と経緯

鈴鹿大学は「地域に立脚した国際人の養成」を教育目標としています。そのため、語学(英語)教育に力点を置いてカリキュラムを編成しています。小中学生英語スピーチ発表会の開催の趣旨(目的)は、国際化社会における英語教育の重要性に鑑み、少しでも近隣の小・中学校の英語能力向上のお役に立てればと考え、実施しています。また、応募者については、鈴鹿市の天栄中学校区および鈴峰中学校区内の小・中学生を対象としています。

### ■活動内容と実績

日時：2018年10月27日(土)9:30~12:00 (大学祭第1日目) 場所：国際文化ホール

参加者：教職員6名、学生2名、小学生8名、中学生4名、一般34名 合計54名

英語スピーチ発表会出場者：

1. 山中彩綾さん “I Want to Fly in the Sky!” Sakae Elementary School
2. 樺島琉起さん “About Singapore” Koriyama Elementary School
3. 坂倉詩乃さん “My Favorite Things I Want to Do Forever” Sakae Elementary School
4. 松浦順正さん “About English” Koriyama Elementary School
5. 平田りのさん “Family for Me and My Younger Sister” Aikawa Elementary School
6. 近藤慶人さん “My Future Dream” Fukaizawa Elementary School
7. 宮崎颯河さん “To Make Progress” Amana Elementary School
8. 瓜生彩乃さん “Make People Smile” Sakae Elementary School
9. 有竹来望さん “To Fly Is My Dream” Reiho Junior High School
10. 中濱 雅さん “School” Ten'ei Junior High School
11. 伊藤えみりさん “My Future Dream” Reiho Junior High School
12. 中島凜音さん “My Future” Ten'ei Junior High School
13. ニール・マホニーさん Special speaker

### ■今後の計画

引き続き、英米語コースもしくは国際コースの学生参加とともに、大学祭第1日目開催を予定して、小中学生約15名の参加募集に努めたいと考えています。

### ■担当者

担当 国際人間科学部 ブライアン・マホニー(2019年度英語スピーチ発表会責任者)

連絡先 メール [bjmahoney@m.suzuka-iu.ac.jp](mailto:bjmahoney@m.suzuka-iu.ac.jp)

事業名：3-11 コトバ・わたし・未来ワークショップ

### ■活動の目的と経緯

2015年度より、日本人、留学生、外国につながる人に、自分の「これまで」と「これから」を話し合う機会を提供するための活動として、「コトバ・わたし・未来ワークショップ」を行っています。この事業は鈴鹿国際交流協会との共催であり、2017年度からは鈴鹿国際交流協会の委託を受けて本学が実施しています。2017年度には「コトバ・わたし・未来報告会」を行い、これまでの取り組みや、そこから得られた知見などについて地域の皆さまに報告しました。

### ■活動内容と実績

2018年度は、下記の日程でワークショップを2回実施しました。

- ・ 7月7日（土） 第1回ワークショップ開催（於ジェフリー鈴鹿 ホール）  
動画発表者：ハヤシ マツミさん（鈴鹿大学 国際人間科学部 2年生）
- ・ 12月15日（土） 第2回ワークショップ開催（於鈴鹿市文化会館 第2研修室）  
動画発表者：ヴェドリヌ・ウィリアムさん（鈴鹿大学 国際人間科学部 1年生）

ワークショップでは、まず、あるキーワードを出発点として自分の感じたこと、考えたことを話し、グループメンバーの話を聞き、まとめる練習をしました。次に、発表者が作成したライフストーリー動画を見て、発表者のこと、わたしのこと、そして、「これまで」と「これから」の未来について共に話し合い、考えました。

第1回の動画発表者、ペルー出身のハヤシ マツミさんは5歳でことばのわからない日本に来て、様々な困難を経験しました。それを一つ一つ努力で乗り越え、大学進学を果たすまでの道のりを発表しました。第2回の動画発表者、ヴェドリヌ・ウィリアムさんはフランス出身です。彼は厳しい指導の下、アイスダンスや音楽のレッスンに励み、数々の成功を手にし、充実感を味わいながらも不自由さと孤独を感じていました。その葛藤を経て来日し、自分の選んだ道を進むことを発表しました。



### ■今後の計画

引き続き、日本人、留学生、外国につながる人のコミュニケーション能力等を高めるための事業を進めていきます。広報活動を見直し、より多くの人に参加できることを目指します。

### ■担当者

担 当 国際人間科学部 棧敷まゆみ・舟橋宏代

連絡先 メール [tabunka@suzuka-jc.ac.jp](mailto:tabunka@suzuka-jc.ac.jp)

事業名：3-12 学校や地域で子どもの学びを応援する人たちの交流会

### ■活動の目的と経緯

三重県教育委員会は、幅広い住民や団体などが参画するネットワークの構築および地域の教育力の向上を目指して、「地域の教育力向上ネットワーク構築事業」を行っています。その三重県教育委員会・三重県（子ども・福祉部）が主催する「北ブロック交流会」を、2017年度より本学が共催する形で開催しています。昨年度も1月に開催し、こども教育学部の2人の教授が事例発表し、参加者がグループに分かれてキーワードをもとに座談会を行い、その後、まとめをしました。今年度も三重県教育委員会担当者と調整し、テーマを設定し、以下の通り実施しました。

### ■活動内容と実績

3月11日（月） 13:00～16:00 B303 教室

テーマは「こどもの自立に向けた教育と切れ目のない支援を考える」。社会教育委員、放課後子ども教室の関係者、地域学校協働活動推進のためのコーディネーター、教育委員会事務局の関係職員などの方々、県教委スタッフや本学学生・教員をあわせ約40名の参加により開催しました。

杉山佳菜子准教授による基調講演。「現場で“気になる子”の支援を考える」として、基本用語の確認と調査結果、「“気になる子”にしない取り組み」として、早期発見・早期療育の仕組み、5歳児健診実態、「生涯発達支援に向けて」として、現代の幼保小接続の具体的課題を学びました。

その後、6グループに分かれて、ある事例の検討を進めました。「自立した生活を送れるような支援計画」を、上記の多職種・多世代の参加者に、幼稚園教諭や養護教諭を目指すこども教育学部の2年生が加わり、それぞれの立場で意見交換しました。グループ発表では、同じテーマでも多様な角度からのコメントが展開し、交流と学びを大いに深めました。参加したこども教育学部の2年生は、今年度経験した学外実習の経験を活かして、グループ発表や書記、進行などの役割をこなしていました。



### ■今後の計画

次年度以降も、三重県教育委員会の担当者の方々とは連携しつつ、地域住民の学びのニーズに応えた研修会を開催する予定です。

### ■担当者

担当 総務課 および こども教育学部学部長 川又 俊則

連絡先 メール [kawamatat@suzuka-jc.ac.jp](mailto:kawamatat@suzuka-jc.ac.jp)

#### 4. 国際交流

事業名：4-1 海外留学支援制度（SOP）

##### ■活動の目的と経緯

本学の目標のひとつに「国際社会で活躍できる人材の育成」が掲げられています。それに対応するため、「海外留学支援制度 Study Overseas Program」（以下、SOP という）を設けています。

学生自らが海外生活を送り、異文化を体験できるよう、協定校への留学を支援します。国際社会へのアプローチを通して、幅広い知識と教養を身につけ、諸国語の習得や対象国・地域の課題を実践的に学ぶことが期待されます。

##### ■活動内容と実績（2018年）

（1）交換留学の派遣：3名（内訳：韓国・仁川大学2名、カナダ・シェリダン・カレッジ1名）

（2）支援金総額：600,000円

派遣実績のある対象校へ学生を送り出していることで、学生自身の成長が本事業として主な目標を達成したとともに、海外大学との国際交流が継続性を見せています。

一方、国内社会の変動に伴う大学経営の深刻化が本事業実施の可能性を制限してしまうほか、派遣対象協定校の増加による多様化、といった課題が残っています。



##### ■今後の計画

SOP 事業改善プロジェクト会議を通して、事業の継続性と健全化を図っています。

##### ■担当者

担当 教務・学生支援課 および COC（地域連携）・国際交流センター長 郭 育仁

連絡先 メール [icpkaku@m.suzuka-iu.ac.jp](mailto:icpkaku@m.suzuka-iu.ac.jp)

## 事業名：4-2 国際交流

### ■活動の目的と経緯

本学の海外における情報発信を図ることにより、入試広報の効果が得られるほか、それに伴う事業の実施も大学総合改革の審査対象となっています。

### ■活動内容と実績

- ・ 2018年5月 第1回台湾・中国文化大学と基本協定を現地調印。台湾首府大学訪問
- ・ 2018年7月 台湾首府大学担当者教員が来訪
- ・ 2018年8月 台湾首府大学ヘインターンシップ生を2名派遣
- ・ 2018年9月 台湾首府大学に鈴鹿大学サテライトオフィスを設置
- ・ 2018年10月 台湾・長栄大学と基本協定を締結

既存の大学間協定に基づく学生交流事業を継続するほか、台湾における本学の国際交流活動を図るべく、新規事業として中国文化大学・政治学部、長栄大学とそれぞれ基本協定を結びました。なかでも、長栄大学との協定締結が発展し、本学と宮古島市の新たな協力関係が生まれることにつながりました。



### ■今後の計画

中国文化大学・政治学部、長栄大学と基本協定を踏まえて、実質的な交流事業を推進します。一方、中国からも新規協定の要請を受けており、国際交流協定による海外発信を着実に進めていきます。

### ■担当者

担当 総務課 および COC（地域連携）・国際交流センター長 郭 育仁

連絡先 メール [icpkaku@m.suzuka-iu.ac.jp](mailto:icpkaku@m.suzuka-iu.ac.jp)

事業名：4-3 啟英高校訪日修学旅行の受け入れ

### ■活動の目的と経緯

今日の日本以上に厳しい少子化問題に悩まされる台湾において、優秀な留学生・入学者を確保するため、2015年より現地での入試広報活動を重ねてきました。

啟英高校は学生数が台湾国内2番目を誇る7000名余りであるとともに、各地の高校・大学機関の日本語学科が閉鎖されていく大きな流れのなかで、当該高校だけが日本語学習者のクラスを3クラスまで（通常1クラスあたり40名ぐらい）増設している将来が期待できる高校です。

### ■活動内容と実績

- ・ 2018年5月 第1回台湾・啟英高校訪問、両校トップが懇談
- ・ 2018年10月 第2回台湾・啟英高校訪問にて、高大連携協定を締結
- ・ 2018年11月鈴鹿市役所、鈴鹿サーキット、鈴鹿抹茶（株）太門通商と連携し、啟英高校の訪日修学旅行を誘致
- ・ 2018年12月 啟英高校の鈴鹿来訪

2018年5月から数えて4回ほど現地訪問を重ね、本学と同グループ法人・鈴鹿享栄学園（鈴鹿高校・中等教育学校）はそれぞれ、「高大接続協定」と「高校間姉妹校協定」を交わしました。台湾啟英高校側も誠意を示すものとして、恒例の日本修学旅行の中身を大幅に予定変更し、実質の滞在時間（4日間）の半分以上、この鈴鹿の地まで足を運んでくれることになりました。

また、当初予想もしなかったものの、鈴鹿市役所、鈴鹿サーキット、鈴鹿抹茶（株）太門通商からも、本学の取り組みに関心を寄せてもらうことができ、当日の体験プログラムを協賛してくれることになりました。地域ぐるみで訪日修学旅行の受け入れを取り組んだこととして、さまざまな分野に波及効果を及ぼす事業となりました。



### ■今後の計画

現地で入試説明会を開催し、優秀な留学生を確保します。また、市内の各セクターと連携し、訪日修学旅行の定着化を図ります。

### ■担当者

担当 総務課 および COC（地域連携）・国際交流センター長 郭 育仁

連絡先 メール [icpkaku@m.suzuka-iu.ac.jp](mailto:icpkaku@m.suzuka-iu.ac.jp)

## 5. 調査研究

事業名：5-1 ビジネス・イノベーション研究センター

### ■活動の目的と経緯

鈴鹿大学ビジネス・イノベーション研究センターは、三重県の持続的発展のために、2015年度三重県高等教育機関魅力向上支援補助金の採択を受け設立されました。①起業家の養成と起業マインドをもった人材の育成、②起業に興味をもった入学生の確保、③県内起業・企業就職の支援、の3つを目的に、三重県雇用経済部や日本政策金融公庫との連携のもと「学生による起業プラン」や「MIE学生ベンチャーサミット」などの事業に取り組んでいます。

### ■活動内容と実績

- ・ 4月 鈴鹿中等教育学校渡邊校長・鈴鹿高等学校的場校長との協議  
三重大学との協議（COC+補助金の活用提案について）
- ・ 6月 導入セミナー「主体的に生きる」（講師：酒井友紀子氏）
- ・ 10～11月 イノベーションマネジメント科目にて起業プラン実践
- ・ 10月 起業セミナー「株式会社を作ろう」（講師：飯高直人氏）
- ・ 11月 GLBCキャラバン in 鈴鹿（講師：中鉢慎氏・長谷悠滋氏）
- ・ 2月 MIE学生ベンチャーサミット2019
- ・ 3月 年間報告書の発刊



2018年度はグループ校である鈴鹿中等教育学校および鈴鹿高等学校の「グローバル人材育成事業」と連携し、GLBCキャラバンやベンチャーサミットの協力開催を実現することができました。さらに三重大学COC+補助金に採択され、例年以上に大規模に開催することができています（GLBCキャラバンへの参加者約100名、ベンチャーサミットへの参加者約160名）。

また、学生の実績として、大学発ベンチャー（株）鈴りん探偵舎が設立されたほか、大学院生が33総合研究所のビジネスプランコンテストで最優秀賞に選ばれるなど、「ベンチャーといえば鈴鹿大学」というイメージづくりに成功しています。



### ■今後の計画

学生ベンチャーサミットによる高大接続をより強めていくため、現在「駅プロジェクト」などでの連携を進めている商業高校（高等学校商業科）の参加が得やすい日程や内容を検討していきます。

### ■担当者

担当 ビジネス・イノベーション研究センター長 高見啓一

連絡先 メール [info@machi-rmc.com](mailto:info@machi-rmc.com)



事業名：5-2 子育てイノベーション研究センター（ランニングバイク普及プロジェクト）

### ■活動の目的と経緯

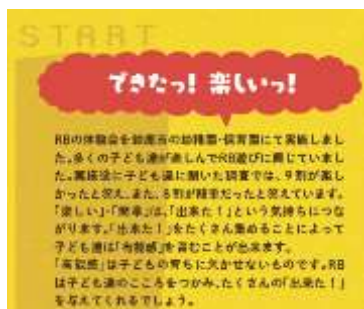
本学の子育てイノベーション研究センターでは、2016年度から鈴鹿商工会議所との協働で「鈴鹿市における幼児のランニングバイクによる地域活性に関する研究」を行なっています。ランニングバイク（以下、RB）は、2歳から乗ることのできる足漕ぎ式の二輪の乗り物です。RBは、生まれて初めて主体的に操縦する車輪のついた乗り物であり、子どもの発育発達を大いに促すとされています。過去の調査では、RBによる身体への発達への影響として、「体力がついた」「足が速くなった」「脚力がついた」などがあげられています。本研究センターでは、幼児の運動機能に関する研究や親子関係の構築に関する調査を進め、RBの経験が子どもの発達に及ぼす影響を検討しています。また、鈴鹿市とも協力し、研究の成果を元に鈴鹿市の子ども達の体力運動能力向上のためにRBを用いた運動遊びのプログラムを開発しています。そして、本学こども教育学部および短期大学部こども学専攻の教学にも組み入れ、RBの指導ができる保育者の養成にも力を入れています。

### ■活動内容と実績

- ・通年 ランニングバイクに関する研究活動
- ・RB普及リーフレットの作成  
（鈴鹿商工会議所の協力により鈴鹿市内の幼稚園・保育所を通じて保護者に配布）
- ・短大部「こどもと運動遊びⅠ」の講義にてRB遊びを体験
- ・2月23日（土） 新名神高速道路開通記念イベント RB試乗体験会 参加
- ・3月16日（土） 鈴鹿大学にてRB大会開催



RB体験イベント



リーフレット



学生のRB遊び体験

### ■今後の計画

引き続き、RBに関する研究活動を継続し、成果を学会や紀要等に発表していく予定です。また、RB大会を開催し、地域貢献および鈴鹿市だけでなく三重県内の子ども達の体力・運動能力向上に寄与していきたいと考えています。

### ■担当者

担 当 子育てイノベーション研究センター長 石川 拓次  
連絡先 メール [ishikawat@suzuka-jc.ac.jp](mailto:ishikawat@suzuka-jc.ac.jp)

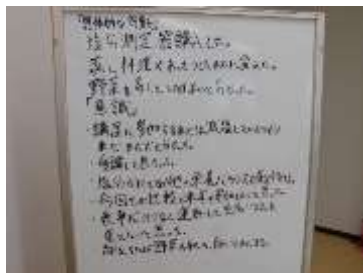
## 事業名：5-3 減塩ワークショップ

### ■活動の目的と経緯

減塩ワークショップは、2018年度より地域住民のための減塩支援プログラムのひとつとしてスタートしました。減塩ワークショップは、全国栄養士養成施設協会 2018年度社会貢献活動への助成金の採択を受け、毎回、食物栄養学専攻教員による講話から、目的に応じた各種アンケート調査、身体測定（血圧など）及び塩分嗜好に関する測定を行い、今年度の取り組みとその効果を振り返りました。

### ■活動内容と実績

- ・6月23日 「食塩と高血圧」（櫻井秀樹）食事調査アンケート①、身体測定①、塩分チェックシート①、減塩ワークショップアンケート①
- ・9月29日 「減塩の工夫」（福永峰子）みそ汁の塩分測定①、塩分嗜好調査①、減塩ワークショップアンケート②
- ・1月12日 「食塩と健康」（乾陽子）食事調査アンケート②、身体測定②、塩分チェックシート②、減塩ワークショップアンケート③
- ・2月16日 「グループワーク、減塩の効果」（久保さつき、櫻井秀樹）みそ汁の塩分測定②、塩分嗜好調査②、減塩ワークショップアンケート④



実施期間中に2回、減塩支援のための情報提供として「減塩通信」を郵送しました。上記4回のワークショップに全て参加した一般参加者は7名でした。2月16日のグループワークでは今年度の取り組みを振り返り、参加者全員から普段の食生活で減塩意識が高まったという意見がありました。「減塩の醤油、みそを使用するようになった」「塩分測定器を購入した」「野菜を多く摂るようになった」など、参加者のほぼ全員から、減塩のための食生活の変化について報告されました。

### ■今後の計画

減塩ワークショップは、小集団に対して継続的な食育活動による減塩支援活動を実施することによって、行動変容を観察していくことに意義があると考えています。今年度の調査、測定の結果についての分析と考察を行い、引き続き、参加者（調査協力者）数を増やし、食育による意識・行動変容に一定の評価を行いたいと考えています。

### ■担当者

担当 短期大学部 食物栄養学専攻 准教授 櫻井秀樹

連絡先 メール [sakuraih@suzuka-jc.ac.jp](mailto:sakuraih@suzuka-jc.ac.jp)

事業名：5-4 教職教育センター（教員の養成・採用・研修の一体的事業）

### ■活動の目的と経緯

2018年度、文部科学省の委託事業「教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」の「特色ある研修改革取組の推進」において申請し、「養護教諭・栄養教諭など少数職種者への効果的な研修」が採択されました。三重県教育委員会担当者と数次にわたる打ち合わせ・報告会を経て、調査研究を実施・完了しました。

### ■活動内容と実績

- ・e-learning（研修ビデオ）作成

三重県教育委員会で開催している「ネット DE 研修」を参考に、鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部制作として新たな自主学習教材、栄養教諭専門、養護教諭専門、教職専門の3分野における研修ビデオを作成しました。

- ・質問紙調査

東海・関西地区（無作為抽出）の養護教諭・栄養教諭を対象とした郵送法の質問紙調査を実施しました。「職能開発の実践」「参加した（したい）研修」「現職研修の有効度」「教員免許状更新講習の有効度」「研修への意識」を尋ね、その結果をまとめました。年齢区分および現勤務校による差異を考察し、一般教員と同等の研修体制の構築の必要性を見出しました。

- ・ヒアリング調査

三重県・滋賀県・愛知県など近県、および北海道で開催された研修会参加者へのヒアリング調査など、現職者の方々の生の声を収集しました。キャリア別概要は次の通りです。「講師時代の研修」採用前に教員として必要なことを学ぶ場がありました。「初年次研修」直接指導にあたる方を設定し、一年間を通じて学んでいます。「若手時代の研修」業務に慣れ、得意分野を探し、児童生徒対応で研鑽を積んでいました。「中堅時代の研修」地区研修会などで個性を發揮し、転勤・校種変更などの大きな変化も経験しています。「ベテラン時代の研修」後輩のキャリア形成への関与・提案をしています。

- ・研修情報提供

職務に関連する多様な研修があるので、広く共有できるように情報を整理しました。質問紙調査は「日本教育保健学会」で口頭発表し、今後論文化します。調査概要は pdf にまとめ公開しました。e-learning（ビデオ）は登録者に閲覧できるようにします。調査結果概要は報告書にまとめました。

### ■今後の計画

養護教諭（こども教育学部）・栄養教諭（短期大学部）という「少数職種」を養成している養成校として、卒業生はじめ多くの現職の方々のリカレント教育の場を提供し、専門性をもつ本学教員による e-learning 教材作成を継続します。本学で実施する教員免許状更新講習も継続し、三重県教育委員会・市町の教育委員会担当者と連携を深め、現職者の方々の学びのニーズに応えた研修会も開催します。

### ■担当者

担当 総務課 および 教職教育センター長・長澤、こども教育学部・川又、短期大学部・石川  
連絡先 メール [nagasawat@suzuka-jc.ac.jp](mailto:nagasawat@suzuka-jc.ac.jp)

## 資料

### 学外委員会などでの活動一覧

この資料は鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部に委嘱届の提出されたもののみを示します。この他に教職員が個人的に学外組織の委員を務めている場合もあります。

### 教員

名 前	派遣先	内 容
木之内 秀彦	鈴鹿市	人権擁護に関する審査 審査委員
富田 寿代	鈴鹿市	廃棄物減量等推進審議会委員
	名古屋市	大規模小売店舗立地審議会委員
富本 真理子	三重県	みえ地域創生多文化産学官連携推進協議会委員
	鈴鹿市	観光まちづくり委員会委員長
	伊勢市	観光振興基本計画推進委員会委員長
	伊勢市	観光振興基本計画策定業務受託者選定委員会委員長
	伊勢市	都市計画審議会委員
	斎宮歴史博物館	運営専門委員
中野 潤三	鈴鹿国際交流協会	評議員
舟橋 宏代	ダイシン物流株式会社	日本語教室アドバイザー
高見 啓一	日本商工会議所	検定推進委員（アドバイザー）
	日本販売士協会	広報委員
	滋賀県販売士協会	理事
	三重県商業教育研究会	学識経験者
	亀山市	亀山市地域人材キラリ育成事業推進委員 副委員長
	鈴鹿大学発ベンチャー 株式会社鈴りん探偵舎	代表取締役
竹田 昌平	三重県生涯スポーツ協会	理事長
	株式会社タケダ	事業経営
久保 さつき	鈴鹿市	農業委員会 委員
仲 律子	公益社団法人みえ犯罪被害者 総合支援センター	副理事長
	三重県臨床心理士会	理事／顧問
	三重県教育委員会	道徳教育推進委員会 副委員長
	三重県	犯罪被害者等支援条例検討懇話会 委員

	三重県	青少年健全育成審議会 委員/会長
	四日市市	いじめ問題対策調査委員会 臨時委員
	亀山市	いじめ再調査委員会 委員
	亀山市教育委員会	事務の評価・点検を行うための学識経験者
	高齢・障害・求職者雇用支援機構	障害者雇用管理サポーター
	三重短期大学	外部評価委員
	第四管区海上保安本部	メンタルアドバイザー
田口 鉄久	津市	子ども・子育て会議委員
山路 克文	松阪市	松阪市安全・安心施策推進協議会オブザーバー
	私立大学情報教育協会	委員
	明和町教育委員会	教育委員
	三重県社会福祉審議会	臨時委員（高齢者福祉専門分科会）
	三重県医療福祉部地域ケア会議	活動支援アドバイザー（広域支援員・専門職）
乾 陽子	家庭料理技能検定	検定委員
	鈴鹿市社会福祉協議会	鈴鹿市災害ボランティアセンター連絡会委員
神谷 勇毅	日本情報教育学会	学会運営業務 支部長

#### 事務職員

名 前	派遣先	内 容
米島 久雄	鈴鹿市	鈴鹿市雇用促進連携協議会構成員

## 2018年度公開講座一覧

	開催日	タイトル
生涯学習・教養シリーズ	5月23日(土)	地域回想法 ～昔の思い出を語ろう～
	7月14日(土)	『魔王』から見るクラシックのいろは ～鑑賞の楽しみ～
	5月11日(金)	初めてのスマートフォン① ～スマートフォンの基礎～
	6月8日(金)	初めてのスマートフォン② ～写真や動画を使いこなそう～
	7月13日(金)	初めてのスマートフォン③ ～スマートフォンの便利なアプリ～
	10月12日(金)	初めてのスマートフォン④ ～スマートフォンの応用～
	11月9日(金)	初めてのスマートフォン⑤ ～便利なアプリを使いこなそう～
	12月14日(金)	初めてのスマートフォン⑥ ～スマートフォンの最新の使い方～
	5月25日(金)	金曜マネープランゼミ① ～会社四季報の読み方～
	6月29日(金)	金曜マネープランゼミ② ～ファンダメンタル分析の基本～
	7月27日(金)	金曜マネープランゼミ③ ～金融機関が教える賢いマネープラン(入門編)～
	10月26日(金)	金曜マネープランゼミ④ ～金融機関が教える賢いマネープラン(実用編)～
	11月30日(金)	金曜マネープランゼミ⑤ ～元証券マンが教える投資のいろは(入門編)～
12月21日(金)	金曜マネープランゼミ⑥ ～元証券マンが教える投資のいろは(応用編)～	
教養・クッキング講座	6月2日(土)	手ごねで作る楽しい手づくりパン教室① カレーパン
	7月7日(土)	手ごねで作る楽しい手づくりパン教室② ベーグル
	7月28日(土)	手ごねで作る楽しい手づくりパン教室③ パナナポトパン
	9月15日(土)	簡単！おとこの料理教室①
	10月13日(土)	簡単！おとこの料理教室②
	11月3日(土)	減塩料理教室
スポーツ・健康シリーズ	6月10日(日)	子どもの運動能力を効果的に高めるプログラム「忍者ナイン」を徹底解説！
	6月10日(日)	親子スポーツチャレンジ ～野球やサッカーに取り組もう！～
	7月14日(土)	どうしたらいい？ストレスとの付き合い方！
	7月14日(土)	健康なカラダについて考える ～知ってますか？身近に起こりやすい病気の基本～
	8月4日(土)	妊娠・出産・育児 ～女性の心と体の健康～
	9月6日(木)	高血圧症になぜ減塩療法が必要か？
	9月26日(水)	自分で作る「インソール」 ～「姿勢」や「歩行」を快適にしよう！～
	10月13日(土)	身近なものを使ったロコモ予防体操をしよう！
	6月23日(土)	減塩ワークショップ①
	9月29日(土)	減塩ワークショップ②
1月12日(土)	減塩ワークショップ③	
2月16日(土)	減塩ワークショップ④	
国際・観光シリーズ	6月10日(日)	暮らしの物語りを歩く 日本と台湾の世間遺産
	6月30日(土)	「英語による講座」カナダの日本人移民の功績
	7月14日(土)	あなたが新たな発見者に！？ ～Google Earthで旅をしよう～
	8月4日(土)	バーチャルな政治、AIな戦争
	10月12日(金)	中国語旅行会話
	7月12日(木)	留学生が教える韓国語講座 ～韓流の世界に浸りながら①～
	11月6日(火)	留学生が教える韓国語講座 ～韓流の世界に浸りながら②～
英語講座	全10回	親子でイングリッシュ 前期 0～3歳クラス
	全10回	親子でイングリッシュ 前期 3～5歳クラス
	全10回	親子でイングリッシュ 後期 0～3歳クラス
	全10回	親子でイングリッシュ 後期 3～5歳クラス
	全10回	英会話講座 前期 初級クラス
	全10回	英会話講座 前期 中級クラス
	全10回	英会話講座 後期 初級クラス
	全10回	英会話講座 後期 中級クラス
	シニアのための音楽療法	5月26日(土)
8月4日(土)		「音楽で健康づくり」脳の活性化で認知症予防に取り組みしましょう！
10月13日(土)		「音楽で健康づくり」脳の活性化で認知症予防に取り組みしましょう！
12月15日(土)		「音楽で健康づくり」脳の活性化で認知症予防に取り組みしましょう！
教員採用試験対策講座		5月12日(土)
	5月26日(土)	一次試験対策(個人面接、集団討論)
	6月9日(土)	一次試験対策(個人面接、集団討論)
	6月30日(土)	一次試験対策(個人面接、集団討論)
	7月7日(土)	一次試験対策(個人面接、集団討論)
	7月15日(日)	一次試験対策(個人面接、集団討論)
	8月8日(水)	二次試験対策(模擬授業、看護実技、個人面接、集団討論)
	8月9日(木)	二次試験対策(模擬授業、看護実技、個人面接、集団討論)
	8月10日(金)	二次試験対策(模擬授業、看護実技、個人面接、集団討論)
	8月24日(金)	二次試験対策(模擬授業、看護実技、個人面接、集団討論)
	8月25日(土)	二次試験対策(模擬授業、看護実技、個人面接、集団討論)
管理栄養士国家試験準備講座	9月15日(土)	解剖生理学分野
	9月15日(土)	臨床栄養学
	9月29日(土)	基礎栄養学
	9月29日(土)	生化学分野
	10月13日(土)	応用栄養学
	10月13日(土)	応用力問題
夏休み子ども向け公開講座	8月4日(土)	植物の「血管」を見てみよう ～葉脈標本作成～
	8月4日(土)	夏休み宿題工作 ～自分だけのかわいい宝箱(小物入れ)を作ろう～
	8月4日(土)	親子で楽しくパソコン教室 ～プログラミングをやってみよう～
	8月4日(土)	生クリームからバターを作ろう！
	8月4日(土)	C-BUSに乗って「はじめてのおつかい」
	8月4日(土)	世界にひとつだけの陶芸作品をつくろう
	8月4日(土)	液晶の正体とは？ ～液晶ストラップの制作
	8月4日(土)	あっという間に終わらせる読書感想文

協定先一覧

2019年3月31日現在

協定先	内 容
放送大学	鈴鹿国際大学と放送大学との間における単位互換に関する協定書
三重大学 等	高等教育コンソーシアムみえ単位互換に関する協定書
四日市大学 他	三重県私立高等教育機関の包括的連携に関する協定書
岐阜経済大学	大学間連携推進事業の実施に関する協定書
佛教大学	佛教大学と鈴鹿大学との小学校教諭免許状課程履修に関する協定書
河北工業大学	鈴鹿国際大学と河北工業大学の編入学生に関する協定証
順天第一大学校	日本国鈴鹿大学と大韓民国順天第一大学校の学術交流に関する協定
仁川大学	日本国鈴鹿大学と大韓民国仁川大学校との教育の交流に関する協議書
NAJC	鈴鹿大学とNAJCの教育パートナーシップに関する協定
台湾首府大学	鈴鹿大学と台湾首府大学との学生交流及び進学支援に関する協議書
蘇州人旺資源服務有限公司	中国人留学生の就職支援に関する協定書
中国文化大学社会科学院	鈴鹿大学と中国文化大学の学術交流に関する協定書
長榮大学	鈴鹿大学と長榮大学との学術交流に関する覚書
啟英高等学校	鈴鹿大学と啟英高等学校との学生交流及び進学支援に関する協定書
三重県立久居高等学校	三重県立久居高等学校と学校法人鈴鹿短期大学との高大連携に関する協定書
鈴鹿中学校・鈴鹿高等学校	鈴鹿中学校・鈴鹿高等学校と鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部との高大連携に関する協定書
三重県立四日市工業高等学校	三重県立四日市工業高等学校と学校法人享栄学園鈴鹿大学との高大連携に関する協定書
鈴鹿市	鈴鹿国際大学と鈴鹿市との学官連携に関する協定書
鈴鹿市	大規模災害時における避難場所としての使用に関する協定書
尾鷲市	尾鷲市インターンシップの取扱いに関する協定書
亀山市教育委員会	亀山教育委員会と鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部との連携に関する協定書
社会福祉法人鈴鹿市社会福祉協議会	社会福祉法人鈴鹿市社会福祉協議会との災害発生時における相互協力に関する協定書
SUZUKA 産学官交流会	ランニングバイクプロジェクトに関する基本協定書
日本政策金融公庫	起業家教育及び産学連携の協力推進に関する協定書

2018（平成30）年度 社会連携報告書

報告書作成・編集  
COC（地域連携）・国際交流センター

発行年月日  
2019年3月31日

発行  
学校法人享栄学園  
鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部